

“ 杉山代表の ひとこと ”

認知症の人と家族の会 神奈川県支部発足から今日まで

4月26日、二俣川地域ケアプラザにて第42回神奈川県支部総会を無事に開催することができました。1981年4月29日に発足して今年度は42年目を迎えることになりますので、この機会に支部の歩みを振り返ってみたいと思います。

神奈川県支部は、1981年4月29日に認知症の人と家族の会(当時は、呆け老人をかかえる家族の会)の第13番目の支部として発足しました。2-3ヶ月に一度の割合で、県下の各地で「つどい」を開き、手書きの支部会報を発行し、一人の世話人の自宅の電話を使って電話相談を始めました。

「認知症は自分たちだけの問題ではなく、みんなが考えていかなければならない問題です。社会的な理解と援助の輪を作り上げていかなければ安心して介護を続けていけない」

こう考えて県や横浜市、川崎市などに要望書を提出しました。会の活動の中心になった人たちは、日々介護を続けているA会員の人たちでした。私や保健師、ケースワーカーや施設の職員などのB会員は、家族の人たちの情熱に動かされたというのが実情でした。

神奈川県支部は、全国に先駆けて様々な活動を提案し、前向きに取り組んできました。具体的には、①「ぼけ相談室」を開設：1983年当時、県内には相談窓口が一つもなかったので「ぼけ相談室」を開設し、会員である医療・福祉・介護体験者が三者一体となって総合的な相談を受けられる体制を作りました。②ブロック会議の提案：1986年関東地区の支部に呼びかけて情報交換と懇親の集まりを開催しました。③全国研修集会の開催：それまで京都で開催されていましたが、1988年、初めて他都市で開催することになり神奈川県支部が担当しました。④一泊リフレッシュ事業：1991年日本火災福祉事業団のモデルケースとして神奈川県支部が実施。その後全国に広まりました。

このように、介護家族である世話人が中心になって活発な活動が行われてきましたが、2000年になって代表、副代表や多くの世話人がそれぞれの事情により支

部活動から手を引くことになり、支部存続の危機といえる事態となりました。やむを得ず、発足以来顧問としてかかわってきた私が代表となり、ぼけ相談に関わっていた保健師や福祉職などに世話人になってもらい、事務所を川崎幸クリニック院長室に置いて支部運営を継続することになりました。はじめの数年间は四苦八苦の活動でしたが、世話人や電話相談員が増えて、役割分担を明確にしながら、世界アルツハイマーデー統一行動、一泊交流・研修旅行、若年性認知症のつどい、家族支援プログラムおよびOB会(忘れな草の会)、ターミナルから看取った介護家族のつどい、木曜会(若年性本人活動支援)、自治体などの委員会・審議会への委員や、講演会などの講師派遣など、様々な活動を行ってきました。

2000年度以降の主な活動は以下の通りです。

2004年京都で、家族の会が中心になって国際アルツハイマー病協会第20回国際会議が開催され、神奈川県からも世話人・会員・一般合計176名が参加しました。

2008年度には福祉医療機構の助成を受け「若年期認知症本人・家族支援・啓発事業」を実施。研修・啓発・芸術療法など、のべ16回行い報告書を作成しました。

2010年1月から神奈川県、6月から横浜市の委託を受けて「認知症コールセンター」を運営することになり今日に至っています。

2015年度では新たな事業として「やまゆりの会」(本人の会)を立ち上げ、若くして認知症になった者同士が、自分たちの気持ちを自身の言葉で話す場を作りました。

2016年度では、2014年度から認知症カフェ「琥珀カフェ」を、2016年度から「アマリリス」を立ち上げました。

2017年4月26日～29日京都国際会館で第32回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催され、神奈川県からも世話人を初めとして多数の会員が参加しました。他の支部と同様、神奈川県支部の活動を紹介したポスターを展示しました。

2018年度以降神奈川県より「オレンジパートナー養成研修事業」の委託を受けました。



編集委員
小林俊一・山下・
小林裕子・石毛・伊藤

支部総会が終わり、新年度がスタートしました。桜の花も散り、緑鮮やかな新緑の季節になりました。まだまだ、収束が見えないコロナですが、感染防止に気を付けて支部活動を続けてまいります。会報も今年度から伊藤さん(男性)が編集委員に加わり、5人体制で皆さんのご希望を取り入れた会報を作成したいと思っています。是非、ご意見をお寄せください。(山下)